

タチキランソウ		<i>Ajuga makinoi</i> Nakai	絶滅危惧 I 類
(環境省:準絶滅危惧)			シソ科
選定理由	既知の生育地で生育の条件が明らかに悪化しており、個体数が危機的水準まで減少している。		写真(清水英彦) 
形態の特徴	茎は斜上するか倒伏し、長さ5-20cmになる多年草。下部の葉は鱗片状か匙状、上部の葉は長楕円形。花期は4-6月。上部の葉腋に数個ずつの花をつける。花は瑠璃色で長さ約15mm。		
生態的特徴	山地に生える。		
分布状況	日本固有の種。本州(関東西南部~東海地方)に分布する。県内では県南の南東部に生育する。		
減少要因	本種の分布域は県南の南東部に限定されており、もともと生育個体数も少ない。また、その再生産能力を上回る採取圧に曝されている。		
保全対策	生育地を公表する必要がある場合は、生育場所を特定することのないような配慮が必要である。また、生育地の保全に配慮が望まれる。		
特記事項			
参考文献	佐竹義輔ほか編「日本の野生植物 草本Ⅲ」平凡社(1982)		

文責:佐藤和良